東マレーシア Sabah のツマグロヨコバイ属¹

川 瀬 英 爾

石川県農業試験場

(1973 年 5 月 14 日受領)

GHAURI (1971) は世界各地の博物館等に所蔵される *Nephotettix* 属の type 標本に基づき、アフリカ、インド、東南アジア、フィリッピンなどに分布する本属の再検討をして、9 種類の詳細な revision を発表し、従来の混乱を整理した。筆者ら(石原・川瀬, 1968; 川瀬, 1971) はさきに西マレーシアおよびタイ国産の本属について調査し 4 種類を確認報告したが、今回農林省果樹試験場の於保信彦技官から、1971 年同氏が東マレーシアの Sabah 地区で採集された本属の調査をゆだねられたので、ここに研究結果を報告する。

1. *Nephotettix virescens*(DISTANT) タイワソツマグロヨコバイ

Selenocephalus virescens DISTANT, 1908
= *Cicadabipunctata fubricius*, 1808, nom. preocc.
= *Nephotettix impicticeps* ISHIHARA, 1964

30♂♂, 46♀♀, Tuaran 26, IV, 1971 イネ
4♂♂, 3♀♀, Tuaran 30, IV, 1971 予察灯
14♂♂, 9♀♀, Tuaran 1, V, 1971 予察灯

本種は頭部に黒条帯が全く見られない種であるが、覆翅上には小黒紋のある個体と、ない個体とがあり、これらを雌雄に分けてみると第 1 表に示すように、雌は全部無紋型で、覆翅上に黒紋のあるものはみられなかった。また雌の雄斑型がわずかに

第1表 タイワソツマグロヨコバイの変異

性	型	計
雄	無 紋	18匹
	黒 紋	24
雌	雌 斑	6
	無 紋	53
雌	黒 紋	0
	雄 斑	5

みられた。雄は黒紋型が多く、無紋型のなかに、雄の雌斑型がみとめられた。頭部黒条帯の痕跡とみられる茶褐色斑は、かなり明瞭にみられ、雄の黒紋型 1 匹は、左右不相称で、単眼後縁から顕著にみとめられたものがあった。本種の分布は GHAURI

(1971) によれば、インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、中国、香港、南ベトナム、タイ、ラオス、マレーシア、インドネシアに広く分布し、サバからも記録されている。

2. *Nephotettix malayanus* ISHIHARA et KAWASE マラヤツマグロヨコバイ

N. malayanus ISHIHARA et KAWASE, 1968, 119—121

1♀, Tuaran, 30, IV, 1971 予察灯

GHAURI によると、マレー半島、フィリッピン、中国、ビルマ、インド、セイロンに分布し、筆者等は、タイ、今回 Sabah を加えることが出来た。

3. *Nephotettix parvus* ISHIHARA et KAWASE チビツマグロヨコバイ

N. parvus ISHIHARA et KAWASE, 1968, 121—123

1♂, Tuaran 26, IV, 1971 イネ
2♂♂, Tuaran 30, IV, 1971 予察灯
1♀, Tuaran 1, V, 1971 予察灯

本種はセイロン、インド、マレー、タイに分布し、今回 Sabah に分布することが明らかになった。雄は黒紋型が 1 匹、無紋型が 2 匹で、雌は無紋型であった。

マラヤツマグロヨコバイとチビツマグロヨコバイの生態は、最近、タイで研究中の井上高技官によると、両種ともイネには加害しないという。

4. *Nephotettix nigropictus* (STÅL) クロスジツマグロヨコバイ

= *N. apicalis* MOTSCHULSKY, sensu DISTANT, 1908
= *N. apicalis* MOTSCHULSKY, sensu ISHIHARA, 1964
11♂♂, 35♀♀, Tuaran 26, IV, 1971 イネ

第2表 クロスジツマグロヨコバイの変異

性	型	黒条帯 の変化	黒条帯の中央部		小 計	合 計
			つながる	きれる		
雄	無紋	複眼間 単眼間	—	—		
	黒紋	複眼間 単眼間	15匹	—	15	16
	雌斑	複眼間 単眼間	1	—	1	
			—	—		
雌	無紋	複眼間 単眼間	24 10	6 9	30 19	49
	黒紋	複眼間 単眼間	—	—		
	雌斑	複眼間 単眼間	—	—		
			—	—		

1 The genus *Nephotettix* in Sabah, East Malaysia (Hemiptera : Cicadellidae). By Eiji KAWASE (Ishikawa Agricultural Experiment Station, Nonoichi-machi, Ishikawa 921)
日本応用動物昆虫学会誌 (応動昆) 第 18 巻 第 1 号 : 28 ~ 29 (1974)

第1図 クロスジツマグロヨコバイ雄の雌斑型。

第2図 クロスジツマグロヨコバイ雄の異常黒斑。

2♂♂, 5♀♀ Tuaran 30, IV, 1971 予察灯

3♂♂, 9♀♀ Tuaran 1, V, 1971 予察灯

本種の雌について奈須(1963)は無紋型を, GHURI は雄のように黒化の強い, 従来の雄斑型を, それぞれ図示している。マレー, タイの本種の雌の多くは, 奈須の図示したものが普通にみられ, Sabah の本種の雌も同様に色彩的に黒化の少ない無紋型ばかりで, 第2表に示したように, 雄は黒紋型であった。

今回, 於保の採集したクロスジツマグロヨコバイの中から雄の雌斑型(第1図)1匹と雄の異常黒斑(第2図)1匹が見いだされた。雄の雌斑型は, 奈須が奄美大島で調査したもので1.2%, 筆者がタイで採集されたものを調査したものでは, みいだせなかった。雄の異常黒斑は, 黒紋型で, 複眼内側に黒紋が出現したもので, 極めて珍しいものと考ええる。本種はタイワンツマグロヨコバイの分布する地域のほか, ニューギニア, フィリピンに広く分布する種である。

おわりに, 種々御教示をいただいた農業技術研究所長谷川仁技官, 標本を提供された, 果樹試験場保信彦技官に感謝する。

引用文献

GHURI, M. S. K. (1971) Bull. ent. Res. 69: 481~512.
ISHIHARA, T. and E. KAWASE (1968) Appl. Ent. Zool.

3: 119~123.

川瀬英爾(1971)応動昆 15: 70~75.

奈須杜兆(1963)九州農試彙報 8: 153~187.

各種植物葉粉末のカイコの摂食と成育に 及ぼす影響について¹

村 越 重 雄

神奈川県蚕業センター

(1973年8月31日受領)

昆虫の宿主選好についてはいくつかの要因が関与することが知られており(平野, 1971), カイコでも桑葉の摂食機構に関して多くの研究がある(林屋, 1966)。さらに, カイコがクワ以外のいくつかの植物葉を摂食し成育もすること(伊藤, 1959; 新倉, 1967, 1971 など), また, 小さいを切除したものはより多くの植物葉を摂食することが知られている(鳥居・森井, 1948;

伊藤ら, 1959)。石川・平尾(1966)は各種植物葉粉末を寒天飼料にしてカイコの摂食機構を調べている。

しかしながら, 桑葉粉末と他種植物葉粉末を混合してカイコに対する影響を調べたものは福田(1962), 宮沢・三好(1966), 磯貝ら(1973)以外にはほとんど見当たらない。そこで, 桑葉粉末を含んだ人工飼料中に34種の植物葉粉末を混入し, これら植物葉粉末のカイコの摂食と成育に及ぼす影響を調べたので, その結果について報告する。

本報告を行なうに当たり, 終始御鞭撻下さった神奈川県蚕業センター高津泰見試験研究部長, 森井謙介病理化学科長ならびに実験に御協力いただいた福原トミエ氏の各位に深く感謝します。

材料と方法

1 Effect of leaf powder of various species of plant added in the diet on feeding and growth of the silkworm, *Bombyx mori* L. By Shigeo MURAKOSHI (Kanagawa Prefectural Institute for Sericultural Science, Ebina, Kanagawa 243)

日本応用動物昆虫学会誌(応動昆)第18巻 第1号: 29~31 (1974)